

北海道新幹線並行在来線対策協議会 第3回後志ブロック会議 議事録

平成26年12月22日(月)14:00～14:45
後志総合振興局 2階 講堂

(北海道交通政策局長)

- ただ今から「北海道新幹線並行在来線対策協議会第3回後志ブロック会議」を開会いたします。開会にあたりまして、交通企画監の越前よりご挨拶申し上げます。

(北海道交通企画監)

- 交通企画監の越前でございます。本日は、年末の大変お忙しい中、北海道新幹線並行在来線対策協議会第3回後志ブロック会議にご出席いただき、ありがとうございます。
北海道新幹線開業まで、あと1年3か月あまりとなりました。先月1日には、木古内町でレール締結式が行われました。そして、今月1日からは、北海道新幹線車両による試験走行も開始されておりまして、いよいよ開業が間近に迫ってきたことを実感しております。
私ども道としましては、北海道新幹線開業戦略推進会議を中心としまして、これまで以上に開業に向けた気運醸成を図る道内外でのPR活動をはじめといたしまして、二次交通の検討など、新幹線の開業効果を全道に波及・拡大させるための取り組みを進めているところであります。
一方、並行在来線の江差線（五稜郭・木古内間）につきましては、本年8月にその運行を担う三セク鉄道会社を設立しまして、北海道新幹線との同時開業に向けまして、関係機関と鋭意協議を進めているところでございます。
- 本日は、北海道新幹線の建設促進等につきまして、新函館北斗・札幌間の工期短縮に向けた動きや、北海道新幹線の開業に向けた取組についてご説明をさせていただきます。新幹線の札幌までの工期短縮につきましては、報道等でご覧いただいたかと思いますが、政府与党ワーキンググループにおきまして、北海道は5年短縮との方針を固めたとのことでした。正式には、おそらく年明け1月のワーキンググループにおいて決定されるのではないかと期待をしているところであります。
- また、地域交通の確保方策に関しまして、身近な先行事例となる江差線（五稜郭・木古内間）の経営計画や三セク鉄道会社の概要をあわせてご説明させていただくとともに、昨年度のブロック会議でもご要望のあった鉄道廃止に伴うバス転換の実例を2件ご紹介し、本日は幅広く意見交換したいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

(北海道交通政策局長)

- 議事に入ります前に、まず、お手元に配付しております資料の確認をさせていただきます。
 - ・資料1-1と1-2が、北海道新幹線の関係資料。
 - ・資料2が、本協議会の検討スケジュールの資料。
 - ・資料3-1から3-4までが、三セク鉄道会社関係の資料。
 - ・資料4が、ふるさと銀河線と江差線のバス転換の概要の資料。
 - ・資料5が、北海道新幹線のカウントダウンプログラムの資料となっております、ここまでの、本日の協議会で使用する資料でございます。その他参考資料としまして、資料6

と資料7を配付させていただいておりますので、後ほど参考にさせていただければと思います。

- それでは、議事に入ります。進行につきましては、越前交通企画監をお願いします。

(北海道交通企画監)

- それでは、次第に沿って進めさせていただきます。よろしくをお願いします。
まず、「3 北海道新幹線の建設促進等について」を事務局から説明させていただきます。

(北海道新幹線推進室長)

～資料1-1と1-2により説明～

(北海道交通企画監)

- それでは、ただ今ご説明させていただいた内容につきまして、ご質問、ご意見等があれば、ご発言をお願いします。

(なし)

(北海道交通企画監)

- それでは、次に協議会の今後のスケジュールを確認したいと思います。事務局から説明いたします。

(北海道交通政策局長)

～資料2により説明～

(北海道交通企画監)

- それでは、このスケジュールをご確認いただけたと思いますので、当面資料2のスケジュールに基づきまして、引き続き調査研究を進めていきます。

次に、「4 並行在来線の地域交通の確保に向けた取組」としまして、「北海道道南地域並行在来線準備株式会社設立に向けた取組状況について」及び「ふるさと銀河線及び江差線（木古内・江差間）の廃止に伴う代替バスへの転換について」を続けて事務局から説明いたします。

(北海道交通政策局長)

～資料3、資料4により説明～

(北海道交通企画監)

- それでは、ただ今、資料3と資料4についてご説明させていただきましたが、ご質問、ご意見等があれば、ご発言をお願いします。

(蘭越町長)

- ご丁寧な説明でしたが、この何か月間で、一番大切な住民の評価はどのようにお聞きしていますか。住民は、木古内・江差間がバス転換となって、どのような評価をしているのでしょうか。

(北海道交通政策局長)

- 直近の江差線の代替バスにつきましては、私どももバス転換に向けた協議の段階から参画をさせていただきまして、色々と地域の皆さんのご意見を聞いてきたところであります。

まず、停留所の数が増えて、そういった意味で利便性は高まったとのご意見は聞いております。

ただ、先ほどもお話ししましたが、運行時間自体はJRに比べてかかっておりますので、特にこれから初めての冬期の運行に入りますので、所要時間については、今後の運行を見ていかないと分からないかなと思っておりますが、総じて地域の皆さんの反応はよろしいと聞いております。

(北海道交通企画監)

- よろしいでしょうか。他にはございませんか。

(蘭越町長)

- 先ほど資料2でも説明していただきましたが、開業となる平成42年度の5年前の平成37年度までに方向性を検討しなければならないという話でした。

私は、前にもお話ししましたが、この協議会ではバスの数やら料金やら資本金などを検討していかなければならないのですけれども、今話題となっている日本の人口減少や少子高齢化など、この沿線の人口や産業形態がどのように変わっていくのかということについて、我々としても地元のことは分かりますけれども、北海道としてどのように考えていくのかということをもとめて頂きたいと思っております。それがなければ、バスの数を検討するにしてもバスを使用するかどうかも分かりませんので、是非、近い将来はまずそれを参考にして、沿線自治体の人口はこうなっていて、どういう状態に産業形態が変わっていくのかをお調べ頂きたいと思っております。

(北海道交通政策局長)

- ただ今お話のありました人口減少の推計につきましては、先ほどご説明しましたとおり、平成37年度にはある程度方向性を決めるということになります。そうなりますと、概ねその2、3年前に需要動向の調査を行うことになると思います。

その際には、当然その時点での人口をベースとしまして、将来の利用状況を見込むこととなりますので、将来の人口予測も含めて実施することになると考えております。

(蘭越町長)

- そこは良く分かりました。しかし、2、3年前に調査するとは言いますが、今から議論をしていく中で、ある程度の推計がなければならぬのではないのでしょうか。現実の問題として、代替バスか第三セクター鉄道にするのかといった議論をする時に、今から推計をしておいて、産業形態がどう変わっていくのかも大事なことだと思います。絶対こうだとは言えないですけれども、ある程度は推計していただければと思います。

(北海道交通政策局長)

- 人口減少問題につきましては、道といたしましても人口減少問題対策本部を立ち上げまして、本年度中にある程度の方針を定めた上で、新年度から道の長期総合計画の見直し作業を進めます。

そうした中で地域の皆様と色々ご議論させていただきながら、人口減少に向かう本道のあり

方を検討して参りたいと思いますし、そのための基礎的なデータとなる人口の将来予測についても当然必要な予測はして参りたいと思っております。

(蘭越町長)

- よろしくお願ひします。

(北海道交通企画監)

- 他にはございませぬか。

(なし)

(北海道交通企画監)

- それでは、「5 その他」としまして、北海道新幹線のカウントダウンプログラムの推進について事務局から説明いたします。

(北海道新幹線推進室長)

～資料5により説明～

(北海道交通企画監)

- ただ今ご説明した内容につきまして、ご質問、ご意見等はございませぬか。

(倶知安町長)

- 今日の新聞にも5年の前倒しというのが出ておりましたが、これは決定ということでしょうか。

(北海道新幹線推進室長)

- 5年の前倒しについては、今まさに議論をしているところでありまして、まだ正式な決定ではありません。年末又は年明けに第4回目のワーキングを開催するとの話も出ていますが、最終的には各関係大臣による討議や署名などによって合意形成され、来年度の予算編成に盛り込まれると伺っております。

(倶知安町長)

- 5年と言わず、7、8年くらい前倒ししても良いのでは。

(北海道新幹線推進室長)

- 私どもも5年以上の前倒しを求めているので、5年前倒しをしていただき、そこにプラスαを働きかけていきたいと思ひます。

(倶知安町長)

- 札幌は冬季オリンピックに手を挙げております。私達もそこにアプローチしようと頑張っておりますし、周辺とも協議をしております。そうなると、オリンピックが来れば5年と言わずにもう少し縮まる気がします。

(北海道交通企画監)

- 札幌では2026年の誘致を目指しているとお話だったと思いますが、5年短縮になっても完成時期は2030年となります。もし、2026年に札幌への冬季オリンピックの誘致が決定したとしても、さらに、4年ないし5年ほど短縮していただかないとオリンピックには間に合わないという勘定になります。いずれにいたしましても、恐らく5年の短縮は実現するのではないかなと思っております。それに向けた活動を続けて参りますのでよろしくお願い致します。

(北海道交通企画監)

- 他にご発言はございませんか。
それでは、全体を通じて何かご意見等がございましたら、お伺いしたいと思います。

(蘭越町長)

- その他ということをお願いがあります。今、前倒しの話もありましたけれども、先ほどお話があったように200何キロのうち、今、昆布トンネルの工事で発生する土捨て場の確保などの問題があります。当町だけでなくニセコ町にも関係するのですが、工事を進めていく中では、プラスになることばかりではなく、実際には色々と苦慮する課題もあります。是非、そうした問題の解決をお願いしたいと思います。

(北海道新幹線推進室長)

- 沿線の方でも色々と問題が出てくる場合があります。直接、鉄道・運輸機構へ言っていた場合もありますが、私どもを介して色々とお話をしていただくこともあると思います。
我々も出来るだけ各町の意向を鉄道・運輸機構へ申し入れしておりますし、色々な形でサポートしていきたいと思っております。出来るだけ上手く工事が進むように努めて参りますので、よろしくお願い致します。

(北海道交通企画監)

- 他にございませんか。
それでは、以上をもちまして本日のブロック会議を終了させていただきます。ありがとうございました。